



あるじでえ

No.20

世田谷区教育委員会 民家園係

〒157-0067 世田谷区喜多見5-27-14

◎ 次大夫堀公園民家園

☎ 03(3417)8492

◎ 岡本公園民家園

☎ 03(3709)6959

平成4年4月1日 発行

平成12年6月 増刷

平成29年3月 増刷

やしきがみ いなり 屋敷神とお稲荷さま

<はじめに>

『あるじでえ』のNo.13とNo.18では、家の中で祀られる^{まつ}屋内神^{おくないしん}について解説しました。今回は家の外で祀られる神々の中から、民俗学で屋敷神に分類されている神々を取り上げます。

屋敷神の多くは家が建っている宅地内に祀られていますが、裏山や田畑の近辺、あるいはやや離れた山中などに祀られている屋敷神も見ることができます。

用語で、実際には地域により様々な呼称で呼ばれています。ここでは屋敷神の呼称の中から、代表的なものをいくつか^{れっきよ}列挙してみましょう。

◎ ウチガミ・ウチガミ

東北地方から北関東一帯では、屋敷神のことをウチガミとかウヂガミと呼んでいます。また宮崎県南部から鹿児島県にかけて聞かれるウッガンサーとかウッガンドンなどの呼称も、これらと同じ^{はんちゅう}範疇の呼称として考えられています。

◎ チヂン・チノカミ・チヌシ

チヂンという屋敷神の呼称は、中部地方

<屋敷神の呼称>

「屋敷神」は民俗学で使われている学術

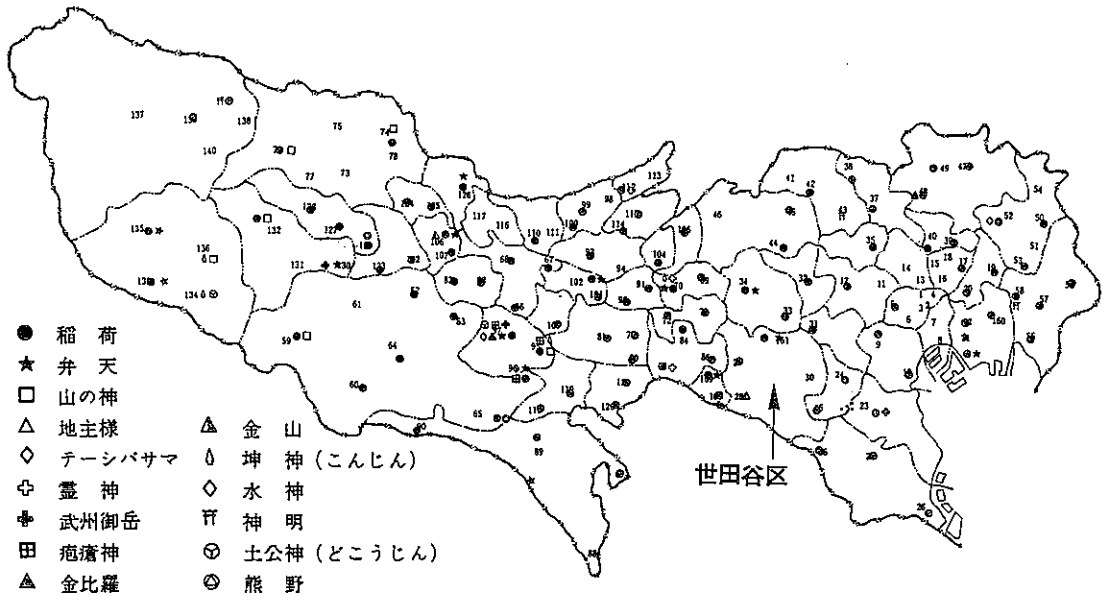


図1 東京の屋敷神(東京都教育委員会編『東京都民俗地図』より)

から関東地方にかけて聞くことができます。一方、デノガミやデヌシといった呼称は、九州を除く西日本一帯で広く使われているようです。

◎ コウジン

『あるじでえ』のNo.13とNo.18で見たように、コウジンと言えば屋内の竈かまどの上や台所に祀られる屋内神として広く知られていますが、屋敷神の中にもコウジンと呼ばれているものがあります。特に岡山県と島根県は、屋敷神としてのコウジンが祀られている中心地域と考えられています。民俗学では、屋内のコウジンを内荒神うちこうじん、屋外のコウジンを外荒神そとこうじんと呼んで区別することもあります。

◎ イワイジン・イワイガミ・イワイデン

これらの屋敷神の呼称は、長野県や兵庫県あるいは佐賀県東松浦郡などに分布しています。

この他、屋敷神の呼称としてチンジュ・ダイジョコ（福井県）、コイチロウガミ（大分県）などがあります。

<屋敷神として祀られる神>

屋敷神といっても、祀られている神は様々です。ここでは屋敷神として、どんな神々が祀られているのかを見ることにします。

同じ村内でも、家によって異なる神を屋敷神として祀る場合もあります。また、1軒でいくつもの屋敷神を祀っている家も見られます。たとえば、長野県東筑摩郡山辺村（現松本市）で行われた調査では、屋敷神として祀られているイワイデンは全部で91確認されました。この91の屋敷神の中には稲荷いなごり（41）、金山神かなやまがみ、三峯社みつみねしゃ（5）など、全部で28種類の神が祀られていることがわかりました。また、福島県相馬郡中村（現相馬市）での調査によれば、屋敷神のウチガミとして祀られている神には、熊野・稲荷

みょうじん・明神・しゅうぜん・勝善・かすが・春日・すお・諏訪などがあり、その数は50種類以上にも及ぶそうです。

<屋敷神としての稲荷>

全国的に見た場合、屋敷神として祀られる神には稲荷が最も多いことが知られています。屋敷神としての稲荷（以下、屋敷稲荷と呼びます）を祀らない地域はないといっても言い過ぎではないでしょう。農村では豊作を約束してくれる神として祀られている稲荷も、漁村では豊漁ほうりょうの神、また町部では商売しょうばい繁盛はんじょうの神として信仰されています。

ここでは稲荷に焦点を当てて、屋敷神としての稲荷信仰を見ることにします。



写真1：宗田家（岡本）の初午

① 伏見稲荷大社について

神社本庁の統計によれば、稲荷を祀る神社数は全国で約3,200にもものぼり、第2位の八幡神社はちまんじんしゃ（約2,500）を大きく引き離しています。稲荷神社の総本社が京都市に鎮座する伏見稲荷大社であることは広く知られているところで、稲荷が屋敷神として全国津々浦々の家々に祀られているのは、伏見稲荷大社から勧請かんじょうされた結果であると考えられています。

伏見稲荷大社の主祭神は宇迦之御魂神うかのみたまのみとあって、和銅4年（711）2月7日の初午

の日に鎮座したと伝えられています。

宇迦之御魂神は五穀豊稔の神としてばかりでなく、養蚕の神・商売繁盛の神・豊漁の神としても古くから信仰されてきました。このことから、屋敷稲荷が農村ばかりでなく、商業地や漁村においても広く祀られているのも理解できるところです。

ところで、世田谷区内の民家に祀られている屋敷稲荷を始め、稲荷の祭日には、お宮の前に「正一位稲荷大明神」と書かれた幟が立てられることがあります。「正一位」は神様に与えられる位階（朝廷が神社の祭神に与えた位で、神階とも言います）の中で最高位を示すものです。伏見稲荷には天長4年（827）に従五位下が授けられてから、承和10年（843）に従五位上、翌11年に従四位下、天慶3年（940）に従一位と昇進し、同5年（942）には極位の正一位が与えられました。

各民家の屋敷稲荷を祀るお宮に「正一位稲荷大明神」の幟が立てられるのも、伏見稲荷大社の影響を強く受けているからと考えられます。

② 稲荷の祭日

稲荷を祭る日を初午（2月最初の午の日）とする地方が多いようです。なぜ初午を稲荷の祭日とするようになったのか。そ

の説明として先に挙げたように、稲荷大神が和銅4年2月7日の初午の日に鎮座したからだとか、空海が稲荷大神に出会ったのが初午の日だったからだといわれています。いずれにしても、こうした話はあとから付け加えられたものでしょう。現在までのところ、稲荷信仰と初午の結びつきは、実はまだ良くわかっていません。

屋敷稲荷の祭日を全国的に調べてみれば、必ずしも初午に限ったわけではないようです。群馬県利根郡利根村では11月15日、同郡新治村では旧暦9月29日が屋敷稲荷の祭日となっています。福島県田村郡では、屋敷稲荷の祭日はもともと旧暦11月14日だったのを、のちに初午に改めたそうです。鹿児島県肝属郡高山町では、屋敷神のウツガンサーに稲荷を祀っている場合、その祭日は11月3日と決まっています。

民俗学者の直江広治氏が江戸時代の資料から屋敷稲荷の祭日をまとめた結果、初午・4月初卯・9月（9日・19日・29日のいずれか）・11月の4つに分類できることがわかりました。この結果から、民俗学では屋敷稲荷の祭日について次のように理解しています。すなわち、屋敷稲荷は農耕神（特に田の神）であって、農作業を開始する春に豊作を祈るのが初午や4月初卯の祭りで、収穫後の秋に感謝を捧げるのが9月



写真2/3：小泉家（宇名根）の畑（もとは田）の際に祀られる屋敷稲荷

や11月の祭りです。それが後に伏見稲荷大社の影響を受けて、地方ごとに違っていた祭日も次第に初午へと統一されるようになっていったと考えられています。

③ 世田谷の屋敷稲荷

世田谷区内でも、屋敷神として祀られている神の中では稲荷が多いようです。農家ばかりでなく商売を営んでいる家でも、稲荷を祀るお宮が屋敷の一遇に建てられています。

「お稲荷さん」とか「お狐様」と呼ばれていますが、稲荷神社と区別するために、屋敷稲荷のことを「うち屋敷の稲荷」と呼ぶ場合もあるようです。

屋敷稲荷にはどんなことを祈願するのか調べてみると、五穀豊穡や商売繁盛ばかりではなく、家内安全をお願いする家や、赤ん坊の夜泣や腹下しに御利益があると信じられている屋敷稲荷など様々です。また、奥沢や宇名根では火伏せの神（火事を防ぐ神）として屋敷稲荷を祀る家もあります。

初午の日には現在でも、屋敷稲荷のお宮に赤飯・油揚げ・お神酒などが供えられ、「正一位稲荷大明神」などと書かれた幟が立てられます。



写真4：海老沢家（宇名根）の屋敷稲荷

◎ 小屋掛け

初午行事のひとつとして、昭和初期頃までは、男の子たちによる小屋掛けが行われていました。



写真5：長島家（大蔵）の初午

初午が近づくと、屋敷稲荷を祀っている家に頼んで、庭に小屋を作らせてもらいます。小屋といっても簡単なもので、丸太を組み合わせて骨組を作り、まわりを藁で囲んだだけのものでした。小屋の中央には炉の穴が掘られており、上から鍋を吊るすようになっていました。男の子たちは小屋の中で料理を作ったり、餅を焼いて食べたりして遊びました。また、夜には小屋に泊まり込んでいたそうです。

◎ 稲荷講

戦前までは、世田谷区内でも稲荷講が盛んに行われていたようです。隣近所で構成される稲荷講と、本家と分家で構成される稲荷講の2通りがあり、どちらも5軒～10軒ぐらいで構成されていました。

初午の日には、講の中の1軒を宿にして講の人たちが集まって、稲荷大明神の掛け軸を床の間に飾り、赤飯・油揚げ・お神酒・煮染めなどを供えます。その後は講の人たちでご馳走を食べたり、お酒を飲んで過ごしました。

区文化財資料調査員 高見寛孝